	Last a state of the state of th					
Title	保険取引における逆選択と経済合理性					
Sub Title	Adverse selection and economic rationality in the insurance transaction					
Author	堀田, 一吉(Hotta, Kazuyoshi)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2019					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)					
JaLC DOI						
Abstract	保険取引は、保険者と被保険者との間でリスク情報を共有することによって安定的に成立する。ところが、保険取引における逆選択は、保険者と被保険者との間に生じる情報の非対称性(偏在)の結果として発生する現象である。保険取引における逆選択は、保険学のみならず保険業別においても常に関心を集めている。しかし、被保険者から見ると、逆選択は、経済合理の行動とみなしうるだけでなく、社会全体から見ても、高リスク者が進んで保険に加入することは、保険システムにリスクを取り込むという保険機能を高めることでもある。経済学や保険学において、逆選択は重大な関心持って理論的にかつ実証的に考察されてきた。しかし、現実の保険市場では、さほど重大に受け止められていないように見える。その理由は、一つに保険者側に逆選択に対処する手段が既に確立されていることであり、もう一つは、情報技術の進展とももに、リスク情報が保険会社に優位になっていることであり、もう一つは、情報技術の進展とももに、リスク情報が保険会社に優位になっていることにあると思われる。保険が社会において重要な機能を果たし、人々の経済的厚生を高めるためには、保険を広く普及させることが肝要である。そこでは、適度でない限りある程度の逆選択を接替することが必要となる。その点で、リスク細分型保険を導入することは、逆選択を排除する効果はあるが、それにより経済的厚生が引き下げられるだけでなく、経営戦略的には必ずしも整合性・合理性が認められない。保険市場は、一定程度の逆選択を容認することにより、発展してきたといってもいい。社会において保険を有効に機能させるためには、単に、逆選択を過剰に拒否することは慎むべきである。むしろ、積極的に保険の効用を引き出して、広く社会に浸透させる努力も保険者の重要な役割である。社会全体として保険機能を後退させないためには、保険を必要とする高リスク者が逆選択として保険から排除されることをいかに抑制するかが政策の課題である。 いち非除されることをいかに抑制するかが政策の課題である。 いち非除されることをいかに抑制するが政策の課題である。 いまいはではいまいまのはではから非常ないまのはではある。はいまのはではないまのはではないまのはではないまのはではいまいまのはではないまのはではないまのはいまのはではないまのはいまのはではないまのはではないまのはではないまのはいまのはではないまのはではないまのはいまのはではないまのはいまのはいまのはいまのはいまのはいまのはいまのはいまのはいまのはいまのは					
Genre	Research Paper					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180024					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	商学部	職名	教授	L-P n L stor	300	(A)	千円
	氏名	堀田 一吉	氏名 (英語)	Kazuyoshi Hotta	補助額	300	(A)	ΤΠ

研究課題 (日本語)

保険取引における逆選択と経済合理性

研究課題 (英訳)

Adverse Selection and Economic Rationality in the Insurance Transaction

1. 研究成果実績の概要

保険取引は、保険者と被保険者との間でリスク情報を共有することによって安定的に成立する。ところが、保険取引における逆選択は、保険者と被保険者との間に生じる情報の非対称性(偏在)の結果として発生する現象である。保険取引における逆選択は、保険学のみならず保険業界においても常に関心を集めている。しかし、被保険者から見ると、逆選択は、経済合理的行動とみなしうるだけでなく、社会全体から見ても、高リスク者が進んで保険に加入することは、保険システムにリスクを取り込むという保険機能を高めることでもある。

経済学や保険学において、逆選択は重大な関心持って理論的にかつ実証的に考察されてきた。しかし、現実の保険市場では、さほど重大に受け止められていないように見える。その理由は、一つに保険者側に逆選択に対処する手段が既に確立されていることであり、もう一つは、情報技術の進展とともに、リスク情報が保険会社に優位になっていることにあると思われる。

保険が社会において重要な機能を果たし、人々の経済的厚生を高めるためには、保険を広く普及させることが肝要である。そこでは、過度でない限りある程度の逆選択を受容することが必要となる。その点で、リスク細分型保険を導入することは、逆選択を排除する効果はあるが、それにより経済的厚生が引き下げられるだけでなく、経営戦略的には必ずしも整合性・合理性が認められない。

保険市場は、一定程度の逆選択を容認することにより、発展してきたといってもいい。社会において保険を有効に機能させるためには、単に、逆選択を過剰に拒否することは慎むべきである。むしろ、積極的に保険の効用を引き出して、広く社会に浸透させる努力も保険者の重要な役割である。社会全体として保険機能を後退させないためには、保険を必要とする高リスク者が逆選択として保険から排除されることをいかに抑制するかが政策的課題である。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

Insurance transaction are stably materialized by sharing risk-related information between the insurer and the insured. However, the adverse selection in insurance transaction is a phenomenon which occurs as a result of the asymmetric information which arises between the insurer and the insured. The adverse selection in insurance transaction is always attracting the interest also not only in insurance study but also in the insurance industry. The adverse selection being able to regarding it as economic rational behavior, even if it sees from a society as a whole if it sees from the insured is also improving the insurance function taking a risk into an insurance system.

In economics or insurance study, adverse selection has been considered to be the serious consideration feeling theoretically and positively. However, in an actual insurance market, it seems not to be caught so seriously. The one reason is that a means to cope with adverse selection at the insurer side is already established, and another is considered to be in risk-related information being predominance with progress of an information technology in the insurance company.

In order for insurance to achieve an important function in society and to raise people's economic welfare, it is important to spread insurance widely. Therefore, it is necessary to receive a certain amount of adverse selection. Although I am effective in introducing risk-segmented insurance at the point eliminating adverse selection, economic welfare is not only reduced, but rationality is not necessarily accepted in management strategy.

By admitting adverse selection about fixed, although the insurance market has developed, it is good. We should refrain from refusing adverse selection superfluously to operate insurance effectively in society. In order not to retreat an insurance function as a society as a whole, it is a policy issue how the high risk person who needs insurance is eliminated from insurance as adverse selection.

as a whole, it is a policy issue new the high risk person who needs insurance is diminiated from modernic as adverse solution.								
3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
堀田一吉	保険取引における逆選択と経済的 厚生	生命保険文化センター保険学セミナー報告	2019年1月26日					
堀田一吉	保険取引における逆選択と経済的 厚生	明大商学論叢 102 巻 2 号	2019年3月					